

ゲームシナリオおおまか

2010 年にはじめて取引が成立し、現在まででその価値が 4000 万倍以上になった暗号通貨ビットコイン。その考案者であるサトシ・ナカモトの正体はいまだに分かっておらず、彼が保有しているはずのビットコインも使われた形跡はない—。

佐藤ひかりの元へ届いた祖父の遺書、そこには自身の PC にサトシ・ナカモトへつながる情報が眠っていること、そしてサトシ・ナカモトの正体を見つけた者には、彼の持つビットコインが報酬として支払われることが書かれていた。

ひかりは一縷の望みをかけて弁護士であり情報工学の専門家でもある雫石あやめに奪われた祖父の PC の奪還とそこに眠る謎の解読を依頼する。反社会勢力の妨害、相互不信の意思決定システム、思い出、人間の業……果たしてひかりたちは無事にビットコインの謎を解き明かすことができるのか!?

キャラクター概要

1. 【佐藤ひかり(HIKARI SATO)】

(基本設定)

ひきこもりの 19 歳の女の子。学校でのいじめや両親からの愛情不足により小学校 6 年生から引きこもりとなり、現在までそのままの状態となっている。昨年に同居の両親が、今年に入って別居の祖父が他界して肉親がいなくなった。祖父が残した最期の手紙にはビットコインに関する謎が書かれており、それを解くことができれば莫大な資産を得られるとあった。その謎解きを雫石あやめに依頼したところから、今回の物語がはじまる。

(途中で明らかになる設定)

自己不信であり、際立った能力もないが、根はとても素直な善人中の善人。一度信頼すると決めた相手は決して裏切らない。また、今まで引きこもりきりであったことに対する強い後悔から、自分を変えるために、様々な困難に全力で立ち向かっていく。

(ストーリー中の変化)

その善性を発揮して他のキャラクターに良い変化をもたらす。

それを経て再び自分の力で人生を歩み直す勇気を取り戻すとともに、他者と関わることで得ることができるものの大きさに気づいていく。ストーリー後は雫石法律事務所に雇われる。

2. 【雫石あやめ(AYAME SHIZUKUISHI)】

(基本設定)

25 歳の女性弁護士。弱冠 23 歳にしてアメリカの大学で情報工学の博士号を取得した才媛。その後諸事情により日本へ帰国し 1 年で司法試験に合格し弁護士となった。ひかりか

ら祖父の残したビットコインに関する謎の解明を依頼される。

(途中で明らかになる設定)

過去に作成した論文が剽窃された経験を持つ。あやめの才能を妬んだ者による犯行であり、あろうことか後に発表したあやめのほうが論文を盗んだのだという無実の罪を着せられ、逃げるようにしてアメリカのアカデミアから去った。

こういった経験から、一定以上に他人を信頼できないという心理的問題を抱えている。いつか冤罪の判決を下したアメリカの司法と自分を信じなかったアメリカの情報工学会に復讐したいという強い願望があり、そのためならなりふり構わない部分がある。嫌いなアッシュをあえて召し抱えたのも、その目的のためにどこかでアッシュのギャンブルの才能が利用できると思ったため。

(ストーリー中の変化)

ストーリーの進行に合わせてひかりの善性にあてられることで自分以外の人間も信用することができるようになっていく。また、どんな手段を使って手でも目的の復讐を遂げようという考え方から、自分自身に胸を張れる形で復讐を遂げようという考え方に変わっていく。

3.【アッシュ】 本名は菖蒲薫之助(YUKINOSUKE AYAME)

(基本設定)

27歳の多重債務者の男。ギャンブル依存症であり、それでできた多額の借金を抱えている。あやめが債務を肩代わりしており、現在はあやめの雑用係としてこき使われている。

性格はガサツかつ極度のノンデリ。他者の感情を察する力も弱い、というか察しようという気は皆無に等しい。しかし、相手を怒らせようと思っているわけではなく、単に思ったことを何も考えずに口にしてしまっているだけなので、時には本心から相手を褒めることもある。

苗字の『菖蒲』の読み方がAYAMEで被っているため、あやめからは苗字を名乗ることを禁止されている。また、自身も自分の姓名が嫌いなため、作中ではだいたいアッシュというあだ名で呼ばれる(asshole『糞野郎』由来のあだ名なのだが、ひかりが語感だけがかっこいいと思って採用した)。

(途中で明らかになる設定)

菖蒲家(あやめけ)という日本有数の名家の長子。幼少期より特別扱いされて育ち、家族以外の人間は自分の顔色を伺いながら接してくるという環境で育った。やがてそんな自分の境遇を呪うようになり、破滅願望を抱くようになってギャンブルにのめり込んでいく。現在では菖蒲家とは完全に縁を切っており、自分の苗字が菖蒲であるということは隠して生活している。

破滅願望からギャンブルにのめり込んだが、皮肉にもギャンブルに関しては稀代の天才。あまりに勝ちすぎるため、過去にはいくつもの闇賭博組織を破滅に追い込んでいる。やがて

恨みを持った闇賭博業界から徒党を組んでのイカサマを仕掛けられた。イカサマを見抜きながらも、自身の破滅願望からわざと勝負を受け敗北、多額の債務を背負った。

(ストーリー中の変化)

ひかりが薫之助の過去や性格を理解しようと努めてくれたことから、自身の破滅願望が薄れていくとともに、アッシュ自身も他人の感情を理解する努力を少しだけするようになる。ストーリー後は債務を返済して晴れて自由の身、と思いきやチェンにハメられ、結局あやめへの借金を返せず、引き続きこき使われていくこととなる。

4.【チェン】日本では陳内(じんない)、中国語では陳龍(チェンロン)と名乗っているが本名は不明。

(基本設定)

いくつもの都市伝説を作り出した 20 代の男。司法の世界においては『弁護士の弁護士』という都市伝説が広まっている。どうしても裁判で勝ちたい弁護士から多額の報酬を受け取り、あらゆる手段を使って裁判で勝利をもぎ取る。もっとも、それすらもチェンが持っているいくつもの稼業の中の 1 つに過ぎない。

普段の性格はチャランポランの極致で、いつもヘラヘラとしている。名前や生い立ちを含めて自身に関する情報のすべてが話すたびに変わるので、ハクも含め誰も本当の経歴を知らない。

頭脳面ではあらゆる分野において常人離れした能力を持っており、特に弁舌に関しては弁護士のあやめですらあっさりと言い負かしてしまうほど。

(途中で明らかになる設定)

赤ん坊のころに親に捨てられたため、戸籍すらない状態で育ち、物心つくころには中国の裏社会に染まっていた。生き抜くために殺人を含む数々の悪行を行ってきたが、やがて自分のしてきたことの罪に苦しむようになる。

平凡な表の世界の幸せに強い憧れを抱いているが、自分には表の世界に戻る資格はないと感じている。元々は裏世界で活躍していたが、他の裏世界の人間の利益となることはあまりしたがらず、近年では裏からも表からも孤立して行動しているため、都市伝説的にしかその存在が伝わらない。

(ストーリー中の変化)

ひかりたちと協力する中で、仲間とともに目的に向かって活動する、という憧れのシチュエーションの 1 つを経験していく。当初は左沢に雇われていたが、ひかりと行動を共にしていく中でひかりの善性にあてられ、最終的にひかりたちの窮地を救う行動をとる。

ストーリー後には世界中で無戸籍の子どもが通える学校が創設されていき、そのすべての出資者には陳内、陳、チェン、あるいはそれに類する名前が残っている。

5.【ハク(白)】 本名不明。ハクという名前は中国で出会ったチェンが名づけたもの。

(基本設定)

かつて傭兵であったチェンと同年代の女性。紛争地帯で生まれ育ち、少年兵として戦場で戦いながら育った。自分の国の紛争が終わっても戦い以外の生き方を知らなかったため、傭兵として世界中の紛争地帯へ赴き、軍やゲリラ組織を相手に戦い続けてきた。中国の辺境で活動していたところをチェンにスカウトされ、それ以降は戦場から退いてチェンの相棒として活動している。

クールで落ち着いた性格であり、チェンとは深い信頼関係がある。

傭兵としての実力は抜群。あらゆる戦闘スキルを身に着けているが、中でも飛びぬけているのが超人的な観察眼。女性には不利と思われる近接格闘も、その観察眼により相手の次の行動を完璧に先読みできるため、確実にカウンターをとれるというチートっぷり。チェンからも個としての武力ならば今地球上にいる人間では最強と評される。

(途中で明らかになる設定)

ちょっとクーデレ。傭兵としての仕事の時を除けば普段はとても優しい性格であり、その観察眼から相手の良いところを見つけることが得意。本人も自覚していない長所を指摘して話し相手を喜ばせるのが好きなのだが、恥ずかしくてなかなか素直に実行できなかったりする。

傭兵時代には投降兵や民間人でも疑わしい状況では容赦なく殺害してきたため、チェンの「表の世界に戻る資格がない」という感覚はハクも持っている。チェンが表の世界に戻らないことにはハクも同意しているが、心の奥底ではそれを齒痒く思う気持ちもある。

(ストーリー中の変化)

ひかりたちと関わってチェンに変化が生まれているのを見て、自分もチェンと同じようにならなっていくことができるのではないかと感じるようになっていく。その後の消息は一切が不明だが、チェンは 99 校目の学校を設立した際に、「ようやく最高の相棒に相応しい数値(百から一を引いた数)に達した」という言葉を残している。

6.【左沢 功吉(KOKICHI ATERAZAWA)】

(基本設定)

悪役。裏社会で生きる中規模反社会組織のリーダー。年齢は 40 代。

表向きは人材派遣会社の社長であり、人材派遣業も成功しているが、本業は闇賭博場の運営。警察等に見つからないようにビルのテナントを定期的に移動しながら闇賭博を開いている。

上部組織には全国規模の暴力団がいるが、多額の上納金を納めているので軽く扱われるようなことはなく、むしろ左沢が多少の無理を言っても聞いてくれるくらいの権力はある。

世の中の人間を仲間とそれ以外に明確に分けて考えており、仲間以外の人間には何の価

値も感じておらず、なんのためらいもなく非情な行為を行うことができる。一方で仲間と認めた者は厚くもてなすため、能力やカリスマ性もあって同じ組織の部下からは狂信的に支持されている。

ひかりの祖父の死後に PC を奪いとり、裏の人脈を駆使してチェンに謎解きを依頼した。当初は謎解きにおいてあやめの知識が必要だということを理解して協力関係を築こうとしてくるが、最終的にはチェンたちも含めて全員を出し抜き、サトシ・ナカモトのビットコインを独占しようと目論んでいる。

(途中で明らかになる設定)

中規模組織の長というポジションだが、知力はそのにおさまらないほど高く、ぶっ壊れた倫理観と合わせてチェンやあやめの想定を超える発想を見せつけて妨害してくる。

今のポジションにいるのは、組織が大きくなりすぎると自分のコントロールしきれない人間が出てくるからという理由。そのため、今の組織の部下は左沢が死ねと言えば躊躇いなく死ぬことができるくらいには完璧にコントロールされている。

(ストーリー中の変化)

ひかりたちによって目論見が完全に潰され、その過程で上部組織に多大な損害を与えたため、その責任をとらされる形で退場。その後の生死は不明。多分海の藻屑。